

基本目標	施策の大綱	施策と評価対象事業の概要		事業費 (人件費含)		
		自己評価並びに有識者意見		評価		
第5章	第1節	① 巡回子ども保育・教育相談事業・こどもサポートセンター事業			5,111	
歴史と文化を継承し創造する心豊かな人を育むむらづくり	子ども支援の充実	自己評価	・こどもサポートセンターの専門スタッフによる巡回子ども保育・教育相談により、子どもの具体的な姿を通して、子ども、保育士・教員・保護者への支援を行った。各学期毎、教育相談員連絡会を開催し、子ども一人ひとりの支援策を検討する機会を設け、子どもの成長に沿った支援の充実が図れた。	B		
		今後の方向	・引き続きスタッフの専門性を活かした子ども、保育士、教員への支援と住民福祉課が立ち上げたこども家庭センターとの役割分担と連携による支援体制を整えていく。			
		意見	専門スタッフによる相談・連絡の場を定期的に設け、子どもの育ちに沿った支援を継続し続けることが大事。住民福祉課との連携を具体的に進めていただきたい。			
				② 児童館事業・放課後児童健全育成事業		11,844
		自己評価	・放課後や長期休業中児童を預かる事業として、子どもへのよりよい対応を学び、支援員資質向上のための研修を実施した。 ・実際の活動では、2つの放課後クラブの交流やにこにこ子ども教室の実施により、異年齢間の交流や自然体験を実施することができた。	B		
		今後の方向	・引き続き支援員資質向上のための研修を実施し、子どもへのよりよい対応につなげていく。			
		意見	支援員の資質向上は大事。一人ひとりの子どもの個性を理解し、伸ばさせるよう、子どもの実態の把握の仕方や教育的配慮、活動設定等研修を深めて欲しい。研修の成果をいかして子どもにより良い環境を与えてほしい。また異年齢の児童が集まる集団なので良い交流が生まれるように力を入れていただきたい。			
				③ 文科型コミュニティ・スクールの推進事業		148
		自己評価	・今年度より文部科学省型のコミュニティ・スクールの運用を始めた。学校運営協議会を4回・学校評価委員会を2回開催すると共に、地域保育園学校協働本部協働会議とも連携し、コミュニティ・スクールを知るための研修会も2回開催することができた。	C		
		今後の方向	・「防災（災害時の対応）」と「PTA活動」を次年度のテーマとして学校運営協議会の熟議を進めていく。 ・コミュニティ・スクールの制度や活動について、広報することを通して地域住民への周知を図る。			
意見	新しいコミュニティスクールの委員は手探りで学校運営・支援への参加を実践しようと努力していた。ただ学校の方針を理解し支援活動している人は委員に限られているようなので、村民の多くが理解し参加できるよう地区へ入り込んで知らせたい。					
	第2節	① 保育園加配保育士配置事業			4,016	
保育環境・幼児教育の充実	自己評価	・保育支援委員会で個に応じた支援の在り方を検討し、必要に応じて加配保育士を配置した。（筑北ひまわり保育園2名、坂井保育園1名）個に寄り添った支援を行うことで対象児の発達、成長をサポートできた。	B			
	今後の方向	・今後も園児および保護者の保育ニーズを精査し、保育支援委員会での検討を経て、個に応じた支援ができるようにしていく。一方で、対応できる人員配置等体制整備を進めていく必要がある。				
	意見	子どもが減少している中、充実した保育に力を入れていただいている。保育支援委員会の検討による「個に応じた保育の必要性」に沿った加配を今後もこの方向で進めていってほしい。				

② 保育ICT化推進事業		2,503	
自己評価	・保育園支援システム「コドモン」を導入したことにより、登園・降園管理及び欠席連絡、状況の確認がスムーズにできるようになり、保護者、保育士双方の負担軽減につながった。また、保護者への連絡や、その日の活動の様子、通知もこのシステムを通して行うことで保護者へより確実に連絡がとれるようになった。	B	
今後の方向	・システム機能が充実しており、保育要録や給食献立立案などへも活用を図っていく。		
意見	システム機能充実で保育士、保護者の負担が軽減されておりとても良い。今後も更に活用を広げて改善できることは進めていってほしい。		
③ 保育園施設修繕等環境整備事業		971	
自己評価	・「自動密閉式子どもおむつボックス」を利用することで、匂いもなく衛生的に処理でき、感染予防対策の一つにもなっている。また、保育士は仕分けの負担や間違いもなく負担軽減になる一方、保護者にとっても持ち帰りがなくて、負担軽減につながった。	A	
今後の方向	・施設、設備については、必要に応じて毎年、計画的に修繕等を行い、保育園の安全性の向上やより良い保育環境づくりを図る。		
意見	常に園の実状を理解され、施設、整備を充実されている。必要に応じて衛生面や修繕等を行っていただいているので今後もこの方向で進めていってほしい。		
④ やまほいく・二園交流事業		355	
自己評価	・年長児は合同保育を行うことで仲間意識が生まれ、安心して就学を迎えることができた。 ・やまほいくでは、両園の周囲の環境を生かした保育活動を行い、地域の応援団の方の協力も得て自然体験や栽培活動等の活動ができた。	B	
今後の方向	・職員同士、職員と地域の応援団の方との打ち合わせや子どもの育ちの姿を語り合う場を継続して作り、保育の充実をはかっていく。		
意見	職員と地域応援団との打ち合わせがうまくいっており、園児も自然体験や栽培活動に生き生き活動しているので今後もこの体制で進めていってほしい。地域が二園に分かれており、自然環境や人的環境も違いがあるが、地域の力も借り、2園交流を活発にして、違いを克服して村の良さを体得する保育を続けたい。		
第3節	① 中学校語学指導助手配置事業	3,600	
学校環境・学校教育の充実	自己評価	・JETプログラム（自治体国際化協会）の外国語指導助手（ALT）が、中学校の英語科指導補助に当たり、子どもたちは生きた英語に触れることで発音、聞き取りなどより深く学習することができた。	B
	今後の方向	・今後も継続実施し、外国語学習活動の充実を図っていく。	
	意見	生きた英語に触れることは英語学習ではとても重要なこと。今後も充実を図っていただきたい。	
② 小中学校教科担当・図書館司書配置事業		21,890	
自己評価	・小学校で算数・理科・体育の専門教科担当の配置、中学校での英語、体育等の講師を村費で雇用し、専門的な教科学習の充実が図られた。 ・システムでの管理により、図書館の適切な管理及び利便性の向上が図れ、本の貸し出しや読書推進に貢献できた。	B	
今後の方向	・小規模校であるため、県費職員の配置数が限られ、専門教科担当の不足が今後も懸念されるため村費補充は必要になってくる。一方で人員の確保が大きな課題である。 ・児童が興味を持つような図書を整備し本に親しむ環境を整備していく。		
意見	専門教科に村費で講師を雇用し児童生徒の学力向上を図っていただいておりますととても良い。今後は各専科の指導研修を充実させたい。人員確保に苦労があると思うが進めていただきたい。学校図書教育では、読書離れの傾向にあるので、本に親しむことに力を入れてほしい。また、配置を村に任せるのではなく国・県費教員増員配置をしっかりと要望していただきたい。		

③ 小中学校特別支援教育支援員配置事業		11,327
自己評価	・児童生徒一人ひとりの育ちに対する支援の充実を図るため、教育支援委員会で個に応じた支援の在り方を検討し、通常学級に在籍する温かな配慮を要する児童生徒への支援の充実を図っている。	B
今後の方向	・特別な支援を要する児童生徒の数的状況に応じ、各学校へ支援員の配置を行う。	
意見	特別支援を必要とする児童生徒が増えていると思うが、「支援委員会」が確かな支援の方向を示してくれるので、支援教員を必要に応じて支援員配置を実施されたい。	
④ 要保護・準要保護就学援助事業		1,563
自己評価	・国の制度に基づいた生活困難な世帯への補助制度であり、その認定については補助提要に基づく判断をおこなっているが、生活の困難さが世帯によって異なるため、認定のための判断が難しい世帯が増加傾向にある。	B
今後の方向	・今後も生活困難な世帯への就学補助を行い、児童生徒が問題なく学校生活を送れるよう継続実施する。また、特別支援学級に在籍する児童、生徒への補助についても検討する。	
意見	児童・生徒の実情を常に多方面から観察し、家庭からの要請に沿って援助を継続されたい。	
⑤ GIGAスクール構想推進事業		7,000
自己評価	・中学校を中心に端末を使った授業が進んできている。ICT支援員による授業のサポートも継続して実施している。教育支援ソフトも現場のニーズに沿って整備を進めた。	B
今後の方向	・ICT支援員による小中学校の児童生徒及び教職員にICTの支援を引き続き行っていく。また、情報モラルの学習も行っていく。 ・端末等の更新に向け準備をしていく。	
意見	中学校が一步進んでいるICT導入を、ぜひ小学校も活用し更に教育効果を上げて欲しい。また効果的な活用研修・研究が必要。予算もかかるが進めていただきたい。	
⑥ 小中学校等施設修繕事業		24,330
自己評価	・中学校では、校舎床面の修繕を行うとともに、給食室の回転釜、ガスフライヤーの更新等を実施。小学校では、FF式ストーブの入替工事、トイレ暖房便座の取り換え修繕等を実施した。	A
今後の方向	・経年劣化に伴う修繕も多くなってきており、毎年、計画的な施設修繕等を行い、学校の安全性の向上やより良い学習環境づくりを図る必要がある。 ・小学校のプールについて、改修や授業形態等学校と協議していく。	
意見	学校は常に施設修繕が必要。実情により順位を確かに決め、予算を確保して実施されたい。	
⑦ 特色ある学校づくり推進補助事業		992
自己評価	・児童生徒が地域の歴史や文化、産業を学び、地域の人との関わりを深める「ふるさと学習」に財政面での支援ができた。小学校においては、8割以上の児童がアンケートでふるさと学習の活動やどんな学習であったか記述できた。中学校においては、善光寺街道イベントを多くの生徒が関わって創り上げることができ、生徒の振り返りでも「地域の方との交流から学べた」とする生徒の割合が増えた。	B
今後の方向	・「ふるさと学習」について、小中学校間でそれぞれどのような活動を行っているのか情報交換し、「学びの継続性」を考える機会を設け、子どもたちの探究活動が深まるよう財政的な支援をする。	
意見	地域を知ることが地域愛につながると思う。小中学校とも「ふるさと学習」に方をいれていただいております。とても大事なことだと思う。コミュニティスクールの実施により小中学校は地域に根差した特色ある学習が活発化している。活発な学習には費用もかかるので、支援を継続して進めてほしい。	

第4節	① 新規文化財認定事業		0
歴史・文化の継承と創造	自己評価	・新規文化財指定なし。	—
	今後の方向	・文化財の調査、整理を進めながら指定、保護に努めていく。	
	意見	村指定文化財の経年修理や近代遺産指定保護等大事になってくる。文化財保護委員会の意向を支援し予算確保していただきたい。	
	② 村歴史民俗資料館整備事業		855
	自己評価	・本城収蔵庫の整理を契機として、民俗資料館等の展示物の構成の見直し等を進めた。こうした活動も生涯学習支援ボランティアの協力を得て、資料館内の整備が徐々に進められてきているが、まだ整理できていない収蔵品もあるため、今後も継続して整理を進めていく必要があると考えている。	B
	今後の方向	・引き続き生涯学習支援ボランティア等の協力により、展示品整備・充実を図っていく。	
意見	旧三村の民俗資料がようやく一か所に集まり展示整理、学芸員の常駐や展示費用等次第に充実させていただきたい。また、生涯学習支援ボランティアの方の力を借りて整備を更に進めてほしい。展示物も見直しながら魅力ある資料館にしてほしい。		
③ 文化財保護事業		0	
自己評価	・村指定文化財への補助金交付はなかった。	B	
今後の方向	・指定文化財のパトロール実施により現状把握し、管理者の要望も整理しながら、必要に応じ補助金等の交付を行い、文化財保護に努める。		
意見	指定文化財のパトロールは重要である。保護に力を入れ、管理者との話し合いも大事。指定しつ放しにならないよう努めていただきたい。		
第5節	① 社会人権教育推進事業		0
人権尊重社会の推進	自己評価	・人権意識を高めるため、村広報に小中学校での人権教育の実践を掲載し、啓発に努めた。	C
	今後の方向	・引き続き住民福祉課とも連携し、村広報、公民館活動、講演会等のあらゆる場で、身近な人権事例等を意図的に取り込み、人権尊重の意識が高まっていくよう啓発していく。	
	意見	現在村で不足していたり、問題に感じている人権問題は何か。外国籍の人や移住した人等が増えたりで以前とは人権問題も範囲が広がってきている。実情の把握必要。小中学校では人権について学んでいるが、村民からは敬遠されがち。人権意識はとても重要なこと。絶えず人権に触れた広報が大事である。	

第6節	① 生涯学習事業（各種イベント・講座等開設）		1,065
生涯学習の推進	自己評価	・従来の事業のほか、コミュニティ・スクールの本格実施に合わせ、地域保育園学校協働活動の一環として筑北未来塾（中学生への学習支援）、筑北寺子屋（小学生への学習支援）を実施した。	B
	今後の方向	・休止していた事業を完全再開するとともに、年齢層の参加者ニーズを捉えた教室等を開催していきたい。また、時代に合った開催方法を模索しながら、より充実した事業展開を図る。	
	意見	一度休止した事業を再開するには時間がかかる。あせらず進めていってほしい。「寺子屋」、「未来塾」の充実をお願いしたい。	
	② 青少年育成補助事業		641
	自己評価	・コロナ禍の影響から、育成会の活動も停滞気味である。しかし、青少年育成補助を継続し、地域の活動を支援した。	B
	今後の方向	・各分館の正副育成会長による筑北村子ども会育成連絡協議会を開催し、各地域の情報交換を行った。少子化で子どもが少ない地域については、他地区と合同で活動することなど促していく。	
	意見	育成会の活動が区民に十分理解されていない。地域で少ない子どもをどう育てるか、育成会をどうするか等話題にする場を設ける提案等支援していただきたい。子どもの少ない所は合同活動等を考えたり、村全体の「子ども祭り」のようなことも考えてもよいではないか。育成会長も各地区の公民館ばかりでなく、持続して子どもに理解ある人を育成会長にすることも大事だと思う。	
	③ 分館運営・活動補助事業		2,676
	自己評価	・コロナ禍以来、分館活動が停滞している状況にある。分館活動交付金の活用方法については、活性化につながる内容であれば特に定めはないため、地域の創意工夫により活動を展開することが可能であり、	B
	今後の方向	・引き続き他地域の活動事例も紹介し更なる交付金の有効活用を図り、地域活動の活性化につなげていきたい。	
	意見	地域では高齢化が進み、公民館活動をしぶる傾向もある。社協とも連携し、各年代が求めている生きがい活動を地域で活性化するよう上記「今後の方向」を大事にしていきたい。地域活性化には分館活動が欠かせない。分館長は地域のニーズを引き出し活動を活発にしてほしい。	
	④ 文化系クラブ育成補助事業		230
	自己評価	各種団体への活動補助事業の成果は、文化祭への展示・発表への参加につながり、各分野の追究や技術を高め、又クラブ員の親睦を図ることができたが、コロナ禍で思うような活動が出来なかったクラブが多かった。	B
	今後の方向	クラブ員の高齢化が進んでおり、クラブ数が減少傾向にある。学ぶことを継続していきけるよう支援をしていく。また、新規のクラブができるよう支援していく。	
	意見	村民が生きがいを求めて、文化的なクラブを結成したり、既存のクラブに所属し活動できるよう、社協と連携し、クラブ紹介や発表の場を設定するなど支援していただきたい。大いに支援して活動を活発化してほしい。	
	⑤ 図書館利用促進整備事業		16,045
	自己評価	・コロナの制限が解除され、イベントを以前の規模に戻して実施してきた。また、「協働電子図書館 デジとしょ信州」の利用など図書館サービスの向上に努めてきた。	B
	今後の方向	・利用者のニーズにさらに応えられるよう、図書や雑誌等を充実させていく。また、利用者が参加したくなるようなイベントをより多く開催していく。	
	意見	図書館職員は読み聞かせ等イベント企画したり、広報したり工夫して良くやっている。図書、雑誌の充実を図り、利用者が固定しないで気軽に大勢利用するようさらに工夫してほしい。	

	⑥ 公民館報発行事業		538
	自己評価	・村民全体への情報媒体として情報部員の取材により地域の情報を細かくタイムリーに拾うことができた。	B
	今後の方向	・誰もが読みやすく親しみのある紙面とするため他の自治体の館報の研究や、研修会へ積極的に参加していきたい。情報発信が後手後手にならないよう、事業計画や進捗状況を的確に把握していく。編集委員の交代などを契機として内容、構成の改善も図っていく。	
	意見	館報が次第に充実し情報部員の取材が広く・深くなってきて勉強させられる。ますます「今後の方向」のように改善を図っていくこと、新しい企画をどんどん取り入れて内容が充実するよう期待する。	
第7節	① 分館対抗事業（野球大会他）		90
スポーツ活動の推進	自己評価	・従来の分館対抗事業は、どの分館も参加者の確保が難しくなっており、開催種目、参加体制の変更を行い、地域ごとの活動を行った。	B
	今後の方向	・人数が集まらず参加できない分館が年々増加傾向であるため、引き続き3地域合同で開催することや人数が集まらない分館で合同チームを作り参加してもらうことなど交流活動の在り方を検討していく。	
	意見	各分館で人数が集まらず、従来やっていた野球、ソフトボール、バレーボール分館対抗ができなくなっているが、若者が係るスポーツだけに、若者の活躍の場が少なくなるのが心配だ。また、高齢化で運動参加はしづりがちであるので、「今後の方向」にあるように努力していただきたい。	
	② スポーツイベント・教室等事業（ストレッチ教室・健康づくり教室他）		636
	自己評価	・コロナ禍で開催できなかったスポーツフェスティバルを再開した。子どもから高齢者までが参加できる種目を取り入れ行った。そのほか、ゴルフ大会、市町村駅伝大会、小学生陸上競技大会、バレー講習会は実施した。	B
	今後の方向	各教室や講座の開催方法や周知する方法を前例にとらわれず、多くの村民に参加してもらえるよう検討していく。また、スポーツフェスティバルの内容をより良いものにしていく。	
	意見	スポーツフェスティバル多くの村民が参加し楽しめるように更なる企画をしていってほしい。各教室や講座の開催方法など広く村民に周知し参加者が増えるようにしていってほしい。村民が気楽に参加できるクラブや教室を工夫し企画実行してもらいたい。	
	③ 体育協会補助事業		787
	自己評価	・ここ数年、コロナ禍で活動が休止又は縮小されていたが、それぞれの団体の活動が徐々に従来の活動が行われてきている。	B
	今後の方向	・各団体の加入者が高齢化により減少傾向にあるため、補助金を活用していただきスポーツ振興をさらに進めていきたい。	
	意見	魅力的なニュースポーツなど、大いに紹介し、どんな年代でも楽しめるクラブを作って欲しい。スポーツ好きが集まって作っている団体なので、自分たちで宣伝し仲間を増やすことも大事だがどんな団体があり、どんな活動しているか、村でも宣伝してほしい。	
	④ 少年・ナイタースポーツ団体補助事業		0
	自己評価	・コロナ禍で落ち込んだ活動が戻らず、でナイタースポーツ団体は活動の休止が続いた。一方、バスケットボール、バレーボールを中心にジュニアチームの活動が定着してきている。	B
	今後の方向	・少年スポーツ団体は人数が減少しているチームがあるため、少しでも増加傾向にできるよう周知等を行っていく。	
	意見	スポーツを求める元気な少年・少女は大勢いると思う。学校にも協力してもらいクラブ紹介・募集ポスター等張らしてもらおう。少子化で参加人数が減少していくのは仕方ない傾向ではあるが、少しでも増加していくようにスポーツの良さを周知していってほしい。	

総合評価		
評価	評価区分	考え方
A	<ul style="list-style-type: none"> 計画通り順調に進んでいる 十分に効果が上がっている 	優れた取組や状況等が見られ、課題はほとんどなく、順調に計画が進んでいるもの。
B	<ul style="list-style-type: none"> 概ね計画通り進んでいる 成果がみえる 	良い取組や状況等が見られ、若干の課題はあるものの、概ね順調に計画が進んでいるもの。
C	<ul style="list-style-type: none"> 計画がやや遅れている 一定の成果が見えるが改善が必要 	課題が少なからずあり、計画の進歩がやや順調ではないもの。また、一定の成果はあったが課題が生じたもの。
D	<ul style="list-style-type: none"> 計画が大幅に遅れている 成果が上がっておらず、抜本的に見直しが必要 	課題が多く、着手できていないか、着手しても殆ど成果が上がらないほど、計画が進まなかったもの。